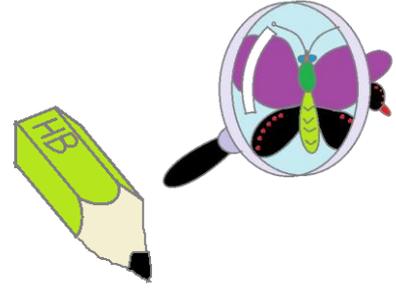


【H27学校便り10月号】

すこやかに かしこく

(人と豊かに関わるなかで学ぶ力を育む)



気候変動の激しい昨今、2学期に入り台風の襲来や集中豪雨の被害も甚大で、この夏の火山活動などと合わせていざという時への備えの大切さを感じるこの頃でございます。

さて、行事の多い今学期。2学期開始とほぼ同時に、運動会の練習が始まりました。

このような、あわただしい中ですが、一心に各教室で学習に取り組む子どもたちを見るにつけ、真摯な態度で学ぼうとする子、生活規範や学習規範を身につけわき目も振らず授業に集中する子。その反対にひとつのことに集中できずルールが守れず、先生からの注意を受けることの多い子。どちらの子も自分のよさを自覚し、その持つ力や適性を十分に伸ばしてあげたいとの思いを強める毎日です。

さて、本校では、桃五スタンダード等基本的な規範意識や学習ルール等を基に、心を育て、そのうえで、学ぶ楽しさ、進んで学習に取り組む楽しさに気付かせ、自ら学ぶ力を育てるべく努力を続けています。

要するに、授業に関わる指導方法は勿論ですが、それ以前の生活規範や学習規範を確実に身につけ、自ら自分の行動をコントロールする力、人と豊かに学び合える力等、健やかで強い心を育てておくことが必要と考えます。

そのような視点から、学級、学年での指導を基に規範意識を育み、自分も人も大切にする心情や配慮ある行動のできる人格の育成に努め、対話面談（各学級での児童との個人面談）等でより深い児童理解を目指し、一人一人の異動を尊重し、豊かな集団生活の送れる活発で落ち着いたある学校生活を創るべく学校をあげて努力しています。

また、学校はできないことをできるようにするところ。児童が自分の力でできるようにすることを目指して教師が指導・支援・援助していくところ。そのような視点を共有して、全職員が児童と相対しています。

また、本来学習は児童が自ら取り組んでいくべきものです。

そこでそのために、学びの初期にあたる小学校では、第一に学びの基本となる「話の聞き方」「人の意見はそちらを向いて黙って聞く」「手をあげて発言する」等、ごく当たり前の学ぶ力から、学習の方法等将来の児童の自らの学びに不可欠な「学ぶ力」を身につけさせておくこと。

第二に、指導方法や授業改善を進め、自ら学ぼう、学ぶことは面白いという体験を積み重ね、学習に進んで「まなぼうとする力」興味・関心・意欲などの心のエネルギーを培っておくこと。

この二つが大切と考え、組織をあげたためあてを共有し、相互に補い合いながら教育活動を進めております。

学校の一大行事の運動会も大きな学びの場であることは言うまでもありません。運動会を間近に控えこんな話をしました。(抜粋)

今日は『589通りの元気をたし算をしよう』という話をします。

一人一人が精一杯自分の得意な力を出し、そして、団体競技や表現運動等、一つのことをみんなで心をついに力を合わせて励ましあいながら頑張る。自分の役割やできることを精いっぱいやって、みんなの力で成功させる。素晴らしいことだと思うのです。

どの学年の人たちもそうです。お互いに助け合って、励ましの言葉をかけ合って、初めてみんなの力が「たし算」になります。「だって〇〇ちゃんが…。」と言っているうちは、これは「ひき算」ですよ。

人を応援する心。人を思いやる心。素晴らしいですね。でも、「どうせぼくなんか。」「でも〇〇くんが…。」どうせ、でも、だって。人のせいにして言いわけしてしまう「ひき算」言葉もあふれます。

運動会までに、「だいじょうぶ…?」「がんばれ…。」という「たし算」の言葉と心で桃五小をいっぱいになりたいですね。

それが、力を合わせる方法なのだと、思います。運動会、がんばれ、がんばれ、ももご、がんばれ……。お話終わります。

運動会、子ども達の自分の力を活かし、みんなでがんばる姿にどうかご声援を。

